

そのキーワード：生態系としての家族

日本大短大 ○小野信夸

目的 環境に対して問題を起こす主体=人間 (Human-Beings) を普遍的概念とすれば、家政学の立場からの主体は家族・家庭 (Family&Home) に特化されよう。この観点から、人間と環境を考察するミシガン州立大学ヒューマン・エコロジー学部における中心概念が“生態系としての家族”である。人間と環境との共生をめざすライフスタイル構築のキーワードとして、“生態系としての家族”の概念を解明する。

方法 同大学名誉教授M.Bubolz論文“Reflections on Human Ecology : Past, Present and Future” (MSU, 1994.7月) および、Bubolz&Sontag “Human Ecology Theory” P. Boss et al (Eds.) Source book of Family Theories and Methods : A Contextual Approach (Plenum, 1993) による分析。

結果 ①人間の存続と生活の質および環境の質とその保全は、人間活動の方法と手段によって左右される。②家族とは、周辺環境との相互作用の中で一つの生態系を構成する人間の固体群である。③資源の利用と保全について各家族が下す意志決定と行動および各家族の環境に対する配慮は、その全てが地球全体にも、また局地的にも意味をもつ結果を生む。したがって、家族は、人間の生態系の中で特に重要なレベルである。④世界の生態学的健全性は、もっぱら、家族・個人の意志決定とその行動の如何にかかわっており、国家社会によるそれのみではない。⑤B. Paulucciによる「生態系としての家族」モデル、Bubolz & Sontagによる「家族生態系」モデル、Bubolz & Sontagによる「家族生態学理論における概念の相互関係」(ポスターセッションのパネル参照)